

たいにい・ぼっくすつうしん

Vol. 80

令和3年
11月12日

「恋です！」を観ています！（ネタバレあります）

相模大野の事業所出入口スロープ横にシンボルツリーとなる木が植えてあります。建物が建てられた時は鉢植えで育てていましたが、スロープ横に植え替えました。すでに根を鉢植えいっぱい張り巡らせた状態で、鉢から取り出せなかったのがそのまま埋め込みました。品種名がフェイジョアであると知ったのは、2年前から春に花を付けるようになったのがきっかけです。そのフェイジョアが、なんと、実をつけました。熟すと食べられるとのことで、毎年この季節が楽しみになりそうです。

ドラマ「恋です！」が、面白くて、事業所内で話題になっています。私自身は、24時間テレビなど障がい者をテーマにした番組は、感動ポルノの要素を感じてしまい好まない傾向にあります。ドラマが始まる前は、「また、お涙頂戴みたいなドラマを始めるのかな」とか、白杖を使用している女性（以下、白杖ガール）がヤンキーと恋をする設定に「現実にはないでしょ」と否定的な考えを示していました。それでも、福祉職の習性でしょうか、チェックしたい気持ちが勝ります。白杖ガールが視覚不自由の度合いや日常生活を解説するシーンで物語が進み、驚かされたのは、濱田祐太郎氏(漫談家)の登場です。「どっちか迷ったら笑ってください」がオチの彼の失敗談では、必ず笑わせてもらっています。回を重ねるごとに面白みがでてきて、役として必要ないんじゃない？と冷ややかに見ていた子の「白杖を持っているだけで優しくされてずるい」のセリフだったり、意を決して始めたバイト仲間の「目が見えないことを武器にしていない？」のセリフは、世間の無垢な意見が反映されていると感じます。この意見に共感した人が、白杖ガールの返しの言葉や姿勢に納得して理解者にならしてもらえたらいいなと、ひとり勝手に嬉しい気持ちになってしまいます。最も心に響くのは、バイト先店長の数々のセリフです。白杖ガールが働くということを“新しい風”と表現しています。職場で第一に大切なのは、生産性ではなく、“新しい風”なのです。

たいにい・ぼっくすの子どもたちも、白杖ガールみたいに“新しい風”を吹かせる大切な存在です。「今日のたいにい・ぼっくすにどんな“風”が吹くかな！」と、毎日楽しみにしております。

たいにい
のようす

写真掲載欄のため、内容を削除しております

感動ポルノとは

提唱したのはオーストラリアのコメディ兼ジャーナリストのステラ・ヤング氏。ステラ氏によれば、この言葉は、障がい者が障がいを持っているというだけで、あるいは持っていることを含みにして、「感動をもらった、励まされた」と言われる場面を表している。そこでは、障がいを負った経緯やその負担、障がい者本人の思いではなく、積極的・前向きに努力する（＝障害があってもそれに耐えて・負けずに頑張る）姿がクローズアップされがちである。「清く正しい障がい者」が懸命に何かを達成しようとする場面をメディアで取り上げることがこの「感動ポルノ」とされる。日本においては、2016年8月28日にNHK Eテレが『バリバラ～障がい者情報バラエティー～』「検証！『障害者×感動』の方程式」で感動ポルノを取り上げ、裏番組に当たる日本テレビ系列の『24時間テレビ』を批判した。（Wikipediaより抜粋）

12月の予定

クリスマス会
他、冬季長期休暇計画書参照

12月 休業日

4日 5日
11日 12日
18日 19日
25日 26日
29日 30日 31日

